

審査講評 2025 日本ストックホルム青少年水大賞審査部会 部会長 清水 芳久

「日本ストックホルム青少年水大賞」は、20歳以下の高校・高等専門学校生徒または生徒の団体による水環境に関する調査研究活動および調査研究にもとづいた実践的活動を表彰するもので、その受賞者は毎年夏にストックホルムで開催される国際コンテスト「ストックホルム青少年水大賞 (SJWP)」に日本代表として参加することになります。

応募状況と審査経緯

2025日本ストックホルム青少年水大賞の応募数は13件ありました。審査は、8人の審査委員からなる日本ストックホルム水大賞審査部会において、審査基準に準じて厳正に行われました。この審査基準は、妥当性（水環境がかかえる重要な問題に的確に取り組んでいるか）、創造性（問題提起や問題解決の方法、実験・調査やデータ解析の方法に創造性が見られるか）、方法論（明確な問題意識のもと作業計画が適切か）、テーマに関する知識（既往研究のレビュー、参考文献、情報源、用語の理解などが十分か）、実用技術、報告書の6項目からなります。

審査は2段階で行いました。まず、各審査委員が行った書面審査の結果を持ち寄って対面およびWEBで審議し、二次審査に進む4チームを選びました。次にこの4チームについて東京都内で、英語による要旨発表、そして研究内容のパワーポイントを用いたプレゼンテーションを聴取したうえで、個別に質疑を行うとともに、審査委員による慎重な協議を経て「日本ストックホルム青少年水大賞」の授賞校を選定しました。

審査結果と授賞理由

○大 賞：沖縄県立宮古総合実業高校 環境班

「2025年日本ストックホルム青少年水大賞」に輝いたのは、沖縄県立宮古総合実業高等学校環境班（代表：本村 彩葉、渡真利 鈴華 指導教諭：前里 和洋）「宮古島の命の源である地下水を化学農薬汚染から守る研究」です。

宮古島は、飲料水の全てを地下水に依存する島嶼です。宮古島の基幹産業は農業（主としてサトウキビ栽培）であり、島面積の約6割は畑として利用されています。沖縄県立宮古総合実業高校 環境班は、病害虫防御の目的で散布される土壌浸透性農薬が水道水や地下水に含有されていることを明らかにしました。

サトウキビ畑の土壌中に蓄積している難溶性無機リンの可溶化を目的として加えたリン溶解菌を添加したバガス炭（サトウキビの搾りかすから生成される廃棄物）が、土壌浸透性農薬を吸着し更に分解する機能を有する可能性を見出しました。土壌浸透性農薬の地下水への流出を防ぐことになることを示唆する結果でした。

この方法は、先進国や途上国を問わず、広く世界で懸念されている化学農薬や化学肥料による水環境の汚染を抑制・低減するのみならず新規の農業技術の導出・発展につながるものであると言えます。

○審査部会特別賞：大分県立大分工業高等学校 DAIKO水車プロジェクトチーム

「2025年日本ストックホルム青少年水大賞審査部会特別賞」は、「水車で創る再生可能エネルギーで通学路の夜道を照らす取り組み」(代表：細石 樹成、宮川 和真、指導教諭：佐藤 新太郎)です。

大分県立大分工業高等学校 DAIKO水車プロジェクトチームは、通学路で女子高生が危険に遭遇したことをきっかけとして、川の流れを活かし独自に開発した水車を利用して防犯灯を照らすことに成功しました。

国内で取得した特許を無償公開することで、水車の輪を広げるためのPR活動を行っています。国外でもケニアの無電化地域の子供達のために、水車を提供する活動も実施しています。

これらの活動は、今後の脱炭素への貢献にもつながるものと考えられます。